

取手市小中学校 PTA 連絡協議会

取手市P連通信 No.16

8 月 25 日・26 日 日本 PTA 全国研究大会 広島大会

取手市 P 連の代表者 3 名にて PTA 全国大会に参加して参りました。

日本 PTA 全国研究大会とは、約 7,000 人が全国から参加する研修会の様なもので、広島大会では 8 つの分科会（1 日目）と全体会（2 日目）が行われ、様々な学びを得る事ができます。

※分科会での学びは取手市 P 連通信 No.15 をご覧ください。

2 日目の全体会は、約 10,000 人が収容できる大アリーナ「広島グリーンアリーナ」にて開催され、最初に歓迎アトラクションとして、広島ジュニアマリンバアンサンブルによる演技が行われ、子どもたちが可愛い姿で演奏・演技する姿に癒されました。

その後の全体会記念講演では、主な著書に、「妻のトリセツ」「家族のトリセツ」などがある人工知能研究者 黒川伊保子先生の講演をお聞きました。

講演の中で、「監督が怒ってはいけない大会」の事が紹介され、20 世紀はがむしゃらで勝てる時代。社会でも「みんなと同じ答えが出せる優秀な歯車人間」が必要とされていたためにスポーツ界でもそれを良しとしていましたが、21 世紀は、人工知能の時代となり、「がむしゃらに邁進して、優秀な成果を出す」仕事は人工知能が行うもので、人間の仕事は「命題を探し出す事」となり、発想力と対話力が求められるとの事です。人工知能 (AI) を使いこなすには、質問側（人間側）のセンスが求められます。

また、人間の「とっさの思考回路」には 2 種類あり、「プロセスを反芻し、気づきを起こそうとする回路」と「ゴールに意識を集中して、さっさと動き出そうとする回路」です。この回路は、「共感型（思いを語る）」「問題解決型（結論を急ぐ）」に置き換えられ、多くの夫婦はこの 2 種類異なる回路で動こうとするパートナーを選んでいるらしく、それがコミュニケーションストレスになります。例えば、家事をしている方が共感型、家事をほとんどしない放が解決型の場合、100 の家事の内 98 をこなしていても、残り 2 をやっていない事から話し出す。そうではなく、共感型は共感してもらう事で処理能力が 3~4 倍速になる事をうまく利用する事ができれば、お互いにストレス無く過ごせるのではないのでしょうか。

この事を子ども達とのコミュニケーションの取り方にも応用していけば良いのではないかと思います。

文責 取手市 P 連会長 鈴木 裕

